令和7年度　岡山県立瀬戸南高等学校　具体的な学校経営目標・計画

【評価基準（達成率）】4:十分達成している（90%）　3:概ね達成している（70%）　2:どちらかと言えば達成していない（40%）　1:ほとんど達成していない（10%）
【評価基準［自己評価アンケート］（是認率）】1:そう思う（100%）　2:どちらかというとそう思う（60%）　3:どちらかというとそう思わない（40%）　4:そう思わない（0%）
【ABC評価】A：100～70%　B：69.9～40%　C：39.9～0%）

1　礼儀正しい生徒の育成

具体的な学校経営目標	担当	具体的な取組	中間評価（数字は達成率[%]）達成状況	担当評価		項目評価	自己評価アンケート（数字は是認率[%]）生徒評価	保護者評価	教員評価	最終評価（数字は達成率[%]）達成状況	担当評価		項目評価	総合評価 74.3 A
◇挨拶や言葉遣い・身だしなみを中心に、社会に出て通用する“礼儀”を身につけさせる。	教務課	・挨拶の励行 ・ベル着の徹底 ・授業開始・終了時の号令の徹底（号令、イス、身だしなみ、礼など）	・ベル着、号令はおおむね徹底できている。しかし、号令の声が小さいクラスもあったため、生徒会・HR委員会とともに、号令強化週間を行った。また、挨拶に関しても教員も含め相手の目を見てできるよう声かけを行っていく。	70	A	68.3 B	78.4 A	71.0 A	81.0 A	・ベル着、号令はおおむね徹底できた。また、チャイムが鳴らない日や学年によって時程が違う場合なども時計を見て行動することができていた。100周年記念式典に向けて礼法指導や校歌練習を行った結果、式当日は校歌を大きな声で歌うことができた。挨拶については、生徒から自主的にする姿が年度当初よりは多く見られるようになったが、より多くの生徒が自ら挨拶できるよう、継続して声かけを行っていく。年間でネクタイ・リボンの貸し出しが150件であった。家を出るときから着用させることの徹底が必要である。	70	A	72.7 A	74.1　A
	生徒課	・委員会活動を活かしたあいさつ運動の実施 ・ 挨拶する習慣を身につける。TPOに応じた言葉遣いができるよう、学校全体で雰囲気や場を構築する。 ・人権を尊重した言葉遣いを身につけさせる。 （校内外を問わず、他者やSNS・メール等で人権に配慮した言葉遣いができるよう指導する。）	・生徒会を中心として朝のあいさつ運動の実施はできている。委員会とのコラボは特定の委員会のみ。 ・挨拶をする習慣については、自ら挨拶をする生徒が増加傾向にある。その反面、教員が挨拶をしても返せない生徒もあるのが現状である。挨拶はコミュニケーションの基本でることを学ばせたい。 ・人権への配慮に欠けた言葉がSNS上で頻繁に書き込まれている。それがきっかけでトラブルも多数あり。	70	A					・挨拶を自らする生徒は増加傾向にあるが、多くが教員がすれば返す生徒である。以前に比べてできるようになってきている。 ・身だしなみは、一部の生徒の乱れが周りへの悪影響になっているケースが多い。 ・「はい」と返事ができる生徒が増えている。	70	A		74.1　A
	進路指導課	・社会に出て通用する「礼儀」をルーブリックで示し、指導する。 ・インターンシップや各種ガイダンスなど、社会と関わる場面を設定する。	・ルーブリックを改めて示し、あいさつ、言葉遣い、身だしなみ、片付け・整頓、管理について指導をすすめる。ルーブリックの改善を呼び掛ける。 ・第1学年で大学教授による講座や社会人へのインタビューを企画し、地域の大人と話をする機会を設けた。教師以外の大人と接することで、礼儀について考えるきっかけとなった。 ・第3学年で進学ガイダンスを実施。第2学年は就労体験やオープンキャンパス へ参加した。事前事後の礼儀指導を行っている。第2学年で11月に進路ガイダンス、第1学年で12月に職業分野別ガイダンスを計画中。	70	A					・学校自己評価アンケート（生徒）では、礼儀正しい生徒の育成に関わる質問項目の肯定的評価の割合は、いずれも9割を超えている。 ・各種ガイダンスの実施や地域の社会人と話をする機会を設けることができた。 ・ルーブリックの活用については、再検討が必要。	81	A		76.3　A
	厚生課	・生徒自ら積極的に清掃活動に取り組む姿勢を育む。 ・生活委員会による啓発活動を継続して美化意識を高める。 ・ゴミの分別収集について周知徹底を図る。	・生活委員の整備係による教室の掃除道具・机・椅子の点検を行った。机・椅子のキャップの交換をした。 ・2学期においても、生活委員会を中心に、生徒の美化意識の向上に務めたい。	65	B					・生活委員会の整備係による教室の掃除道具・机・椅子の点検を行った。机・椅子のキャップの交換をした。 ・生活委員会を中心に、桃源祭でのごみ箱の設置と分別、生徒の美化意識の向上に務めた。	80	A		75.1　A
	園芸科学科	・5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の実践から安全教育（GAP）へ	・「はい」の返事、挨拶、言葉遣いについて指導している。概ね浸透してきつつある。	70	A					挨拶や返事が十二分にできている生徒もいれば、不十分な生徒もいる。個別での指導と全体への指導を並行して行っている。いずれにしても継続して指導をしていく。	70	A		74.1　A
	生活デザイン科	・服装・頭髪等、ふさわしい身じたくで授業や実習に臨ませる。 ・挨拶と礼儀、正しい言葉遣いを日頃から徹底させて、各教科・実習を通して当たり前のこととして出来るようにする。 ・校内外での実習を通して、社会人として通用するコミュニケーション能力を育成する。	学年団の生デの教員を中心に日々、生徒へきめ細やかな声かけを行い、挨拶や礼儀は上級生になるほど定着しつつある。校外の実習などを通してコミュニケーション力なども向上している。本校生徒としてふさわしい行動がとれるよう、日常的な声かけや指導を継続的に行っていく。	62.5	B					生徒のアンケート結果は「礼儀正しい生徒の育成」の肯定的な回答が全項目で88%以上という比較的高い結果であった。日頃の指導の成果が出ていると思われる。次年度に向けて、科の模範となれるよう、進路実現も見据えて指導していく。	72	A		73.0　A
	1年団	教師から積極的に声かけをし、生徒が挨拶しやすい環境を作る	・校内ですれ違う時に挨拶をしたり、朝タSHR、放課後、授業等で言葉遣いや身だしなみの大切さに言及したりしている。	70	A					教師から挨拶したり声掛けしたりすることで挨拶をできる生徒が増えた。また実習の時にきちんと返事をできるようになった。朝礼の時の点検などを通じて身だしなみを整える意識も向上している。	70	A		74.1　A
	2年団	・場面に応じた言葉遣いや言動ができるように声かけを行う。	場面に応じた言葉遣いができている生徒も多いが、その都度、指導を要する生徒も多い。さまざまな場面を捉えて服装指導も含め、声かけや具体的な指導を続けてていく必要がある。	65	B					場面に応じた言動に心がける生徒が増えてきたが、まだ一部には服装や頭髪で指導を要する生徒もいる。進路実現を見据えた指導や、場面に応じた指導を継続する必要がある。	62	B		71.5　A
	3年団	・卒業後に必要な、マナー（挨拶・言葉遣い・身だしなみ）が身につくようにする。	・挨拶はほとんどの生徒が返せるが、自ら声を出せる生徒が少ない。 ・言葉遣いは場面に応じた対応を行おうとする意識はあるが、指導が必要な場面も多くある。 ・身だしなみも多くの生徒が場面に応じて整えられるようになったが、校外での意識付けはまだ努力が必要な状態である。	72	A					日々の指導に加え、面接練習や販売実習を通して「挨拶や言葉遣い、身だしなみ」など個人差はあるが場面に応じて対応しようと成長してきている。しかし、自発的という点ではまだ努力が必要と感じる。	79	A		76.3　A

※各担当の総合評価は、中間評価に自己評価アンケート（生徒・保護者・教員）と最終評価を合計し、平均値を求めている。
例）教務課：（70＋78.4＋71.0＋81.0＋70）÷５＝74.1　→70%以上なので評価はA

※右上に示す、学校経営目標の総合評価は、各担当の総合評価を合計し、平均値を求めている。
例）１ 礼儀正しい生徒の育成：（74.1＋74.1＋76.3＋75.1＋74.1＋73.0＋74.1＋71.5＋76.3）÷９＝74.3

2　学力向上と進路実現

具体的な学校経営目標	担当	具体的な取組	中間評価（数字は達成率[%]）達成状況	担当評価		項目評価	自己評価アンケート（数字は是認率[%]）生徒評価	保護者評価	教員評価	最終評価（数字は達成率[%]）達成状況	担当評価		項目評価	総合評価 65.5 B
◇キャリア教育を基盤に3年間の様々な学びを通して学力を向上させ、進路実現を図る。	教務課	・1人1台端末を活用した授業や家庭学習の推進により、継続的な家庭学習の定着と基礎学力の養成につとめる。 ・「テーマ（めあて）」「展開」「まとめ」等、授業の見通しや目標を生徒に持たせて授業を行う。	1人1台端末の活用を推進するため、指導主事による教員研修会を行った。各クラスや教科・科目ではGoogleClassroomを本格的に導入し、授業での活用、家庭学習での活用をしている。「ICT機器を活用した（させた）学力向上を意識した教科指導」をテーマに公開授業を行い、教員同士で授業での1人1台端末の活用方法や教授方法を共有した。基礎力診断テストでは、2年生においてはどの教科も前回より義務教育段階の正答率が上がっていた。3年生においては、全体でD3の人数が8人減少した。	70	A	66.1 B	58.3 B	61.0 B	72.0 A	・今年度からGoogleClassroomを活用したり、教育情報化推進室から講師を招き2回の校内研修を行った結果、7月に行った1人1台端末活用状況のアンケートの「普段授業でどの程度端末を活用していますか」において、「1日に1回以上の授業で活用している」が昨年度1年生6.2%から今年度1年生76%（県平均並）に上昇した。 ・岡山型学習指導のスタンダード【増補版】にならい、授業の最初にめあて（目標）を示す、授業の最後に授業の振り返りをする等、あらためて瀬戸南高校版授業スタンダードを作成し、よりよい授業をしていきたい。	80	A	70.0 A	68.3　B
	進路指導課	・キャリア教育タイムを実施し、手帳の活用を通じた基礎的・汎用的能力の育成を目指す。 ・キャリア・パスポートや適性検査の結果を活用して、生徒と対話的な関わりを持つ。 ・放課後実習や委員会活動など、異年齢集団での生徒の主体的な活動を後押しする。 ・進学補習を効果的に実施できるよう、工夫する。	・キャリア教育タイムを8回実施。手帳の使い方について、動画も交えて指導している。生徒同士の関わり、教師との関わりも生じている。 ・キャリア・パスポートを記入する時間を確保している。適性検査の結果を懇談等で伝えながら、進路希望と本人の適性について対話的な関わりを持っている。 ・実習や委員会活動についても、手帳による振り返りやキャリア・パスポートへの記載を通じて生徒が学びを実感できるようにしている。 ・進学補習に13名の申込があり、生徒は進路実現に向けて学習に取り組んでいる。	70	A					・キャリア教育タイムを19回実施。8割の生徒は何らかの形で手帳を使ったり、使おうとしたりしている。 ・自分の将来について具体的に考えるようになった生徒の割合は2年・3年を見ると8割を超えている。キャリア・パスポートや各種ガイダンスなど、今年度の取組を継続していきたい。	79	A		68.1　B
	生物生産科	・授業力向上により、生徒の学力向上を図る。 ・進路実現に向けた、スキルアップのサポート。	授業でのClassroomの活用が進んでいる。課題配信やドキュメントやスプレッドシートでの情報共有や同時作業により学習活動が円滑になった。学力向上への寄与は中間期ではまだ効果が十分ではない。	60	B					ICT機器の活用（学校自己評価アンケート、項目5の指数3.3）による授業改善によって、生徒の授業・実習に対する目的意識は向上した様子はあるが学力向上にはつながっていない。まとめや振り返りの時間を十分にとり、学びの定着を図るよう工夫する必要がある。進路については、現実的にとらえることができていない生徒がいるが、一方で、今年度は農業系の進路を選択する3年生が5名いた。資格取得等にも取り組ませ、進路意識をさらに高めていく必要がある。	60	B		62.3　B
	園芸科学科	・教材、課題の開発・作成と検証（タブレットの活用）、教材研究の継続	・タブレット端末を利用したわかりやすい授業、魅力ある園芸作物の栽培など工夫を凝らしている。	70	A					タブレット端末を利用し、事前学習や復習が生徒個々でできるように工夫している。また、圃場でとった数値データや画像を端末を利用して整理やレポート作成に利用している。コースごとに工夫をこらしているが、お互いに何をしているか共有する必要がある。	69	B		66.0　B
	生活デザイン科	・進路指導課と連携し、基礎学力の定着を図り、個々の志望に応じた進路実現ができるように学力向上をサポートする。 ・課題提出など学習習慣を身につけ、資格取得や検定合格を目指した支援を行う。 ・上級学校や産業界と連携し、専門学科を活かしたキャリア教育を展開する。	進路実現については、1年の早期から担任を中心に個々の志望を聞き、適切なアドバイスを行っている。2年の間には大半の生徒の希望が固まり、3年でよいスタートが切れている。	65	B					・タブレット端末を利用した授業や家庭学習も行っており、概ね、進路への意識も高く、目標に向けて努力している姿が見受けられた。 ・提出物は学校をあげて取り組んでおり、担任が提出状況を把握し、早めに声をかけることができた。 ・保育実習や課題研究において、上級学校との連携を図り、調査研究に取り組むことができた。	70	A		65.3　B
	1年団	・「提出物」などを通じて学習習慣を身につけさせる。	・端末で課題を配信し提出させることで提出状況の把握が容易になり、結果として提出率が向上した。 ・日頃から提出物の意義を説明したり、各教科担当者から提出の呼びかけを頻繁に行ったりしている。	70	A					一人一台端末をの利用が浸透している。課題の提示、提出などで利用できるようになった。そのことが生徒の学力向上に寄与している。また中学と高校の違いについて授業やLHRで伝えることで学習への意識を高めることができている。	75	A		67.3　B
	2年団	・「課題」や「提出物」への取り組みをを通して学力の向上を図る。	全教科にわたって提出物や課題を出す・出さない生徒の二極化が現れている。成績にも反映されている事を踏まえ、今後も担当教員中心に、学年全体で定期考査前の学習会や提出物強化週間を設け指導を続けていく。	55	B					提出物を期限内に出せない生徒が一定数いる。概ね進路実現を具体的に見据えた生徒も増えてきているが、行動に結びついていない。引き続き家庭との連携も密に取りながら課題や提出物の意識や評定への影響も含め指導を継続する必要がある。	60	B		61.3　B
	3年団	・「提出物」への取り組みをを通して学力の向上を図れるようにする。	・学科により割合に差はあるが、学年を追うごとに提出率は上がってきており、成績の改善につながっている生徒もいる。しかし、作業的に取り組む生徒や、全く提出できない生徒もおり、継続した指導の必要性を感じる。	69	B					先生方の根気強い指導の成果で課題提出が身についた生徒もいる一方で、全く出来ない生徒も依然として一定数いる。また、進路決定後に意欲低下が見られる生徒もおり継続的指導が課題である。	67	B		65.5　B

3 生徒が主体的に取り組む教育活動の推進

具体的な学校経営目標	担当	具体的な取組	中間評価（数字は達成率[%]）				自己評価アンケート（数字は是認率[%]）			最終評価（数字は達成率[%]）				総合評価 65.2 B
			達成状況	担当評価		項目評価	生徒評価	保護者評価	教員評価	達成状況	担当評価		項目評価	
◇"自律"を促す創立百周年関連行事・三本部活動・部活動等、生徒主体の活動に挑ませる。	生徒課	・部活動、委員会、三本部活動において、"自律的"に取り組み、学校生活をより良くする提案・企画・運営を行う。 ・生徒一人ひとりが活気ある学校生活を送れるよう、自己存在感が感じられ、自立的に行う活動を尊重する。	・部活動については、教員側の優先順位の低さを感じる。部活動の日ですら全職員でできない。 ・三本部活動については、それぞれが取り組みはあるのだろうが見えてこない。 ・生徒が学校を良くする方向にという自立的な活動にはほど遠いかと思われる。	50	B	64.6 B	65.5 B	67.1 B	62.3 B	・生徒の自発的、自主的な活動が見えてこない。上記にもあった教員がいないとできない部の様子がある。 ・部活動について、教員側の優先受遺と熱量の問題がある。 ・三本部活動については、それぞれの取り組みはあるようだが、見えてこない。見える化が必要。 ・百周年式典では、三本部の役員を会場内外の役割を当て、活躍することができた。	60	B	66.2 B	61.0 B
	生物生産科	・農業クラブや研究活動を積極的に進める指導を展開し、自律を促す。 ・農業関係機関(企業、大学、農家)の協力を得て、プロジェクト学習を展開する。	両コースともに、数年間継続して行っているプロジェクト活動が定着している。先輩から後輩へと取り組みの引継ぎができてあり、学年を超えた協働の姿が見られるようになった。	70	A					扱う教材によっては、防疫の関係から生徒主体が難しい面もあるが、工夫によって課外の取り組みが後輩へと引き継がれており、放課後、自主的に活動する生徒が増えた。これにより、達成感や自信を持つ生徒がかしずつ増えてきている(学校自己評価アンケート、項目11の指数3.4)。普段の授業でも、提出物が出せないことや忘れ物が多いこともあるが、授業や実習への取り組み方はよくなってきている。	65	B		66.0 B
	園芸科学科	・交流会、発表会、実習等様々な場面を活用し生徒自ら運営する場面を作る。	課外の研究活動、農業クラブ活動に積極的に取組む生徒の姿があり、フラワーアレンジメント競技・意見発表で入賞することができた。1年生の参加や2年生から新たに参加する生徒も見られた。活動する生徒達の姿が他の生徒に良い影響を与えており、3年生の課題研究も意欲的に取組む生徒が多い。	90	A					両コースとも積極的且つ精力的に研究活動に取組んだ。生徒主体のプロジェクト活動に取り組んだ。数年継続している研究活動もあり、成果をあげることができた。しかし、研究に対して無関心な生徒が一定数いる。一方で、研究活動に取組む生徒の姿が普段の学習活動に影響を与えている部分があり、特に3年生の課題研究では、計画的に実施できているグループが多かった。	70	A		71.0 A
	生活デザイン科	・専門科目では、生徒の主体的な活動が充実するよう計画的に指導し、コンクールなど生徒が活躍できる機会が増えるよう努める。 ・ホームプロジェクトや課題研究を中心とした研究活動に主体的に取り組ませ、発表の場を与える。 ・家庭クラブ活動など、生徒主体の活動を活性化させる。	・100周年記念品を家庭クラブで案を出し、新制服をモチーフにしたコースターを製作した。手作り作品につけるオリジナルタグも生徒デザインで作成できた。 ・デザイン画、手話、料理などのコンテストに応募はしているが、なかなか顕著な成果が出ていない、引き続き指導していく。 ・家庭クラブ活動では、昨年に引き続き校外へも目を向け生徒主体で活動し、研究成果をまとめている。支部大会へはスクールプロジェクトとホームプロジェクトの両方を応募予定である。	62.5	B					・食物では3年生の生徒が、全国規模のコンテストに入賞することができた。出場には至らなかったが、手話によるスピーチコンテストの全国大会にも生徒が熱心に取り組み、チャレンジする姿が見られた。 ・昨年に引き続き、家庭クラブ活動としてホームプロジェクトとスクールプロジェクトの両方を支部大会で発表することができた。 ・シクラメン祭や東区あそび広場では、学習の成果を生かして生徒が主体となって活動できた。 ・生デ★フェスのチラシやポスター、ロゴ作成など課研の学習と結びつけて生徒がデザインし、校外へ発信した。	71	A		65.6 B
	1年団	・スケジュール管理を通じて自律心を養う。	・手帳へスケジュールの記入をさせることで、自律心の醸成を図っている。 ・一人一台端末でgoogleクラスルームを使用して自己管理を促している。	60	B					手帳の利用が定着し、各自でスケジュールの管理ができるようになってきた。また一人一台端末を通じて担任と生徒や生徒同士での情報共有が円滑になり、またエナジードなどの教育アプリを利用することで学力向上の成果に結びついている。	75	A		66.0 B
	2年団	・校内外の活動やボランティア活動などを推奨し、また「手帳」を活用したスケジュール管理が出来るようにする。	「手帳」の活用がキャリア教育タイムで留まっている生徒が多く、全体としての活用状況はよくない。SHRや学年集会など具体的に活用させる場面を増やしたい。また、ボランティア活動については、意欲的に参加する生徒が増えつつある。今後も声かけを行っていきたい。	55	B					SHRなどでの声かけで「手帳」の活用を促した。活用できている生徒とできていない生徒に大きな差が出始めている。今後の見通しを立てた学習や、スケジュール管理など活用に期待したい。また、外部のボランティア活動に意欲的に参加する生徒も増えつつあり、学校外での活動の実績に結びつけたい。	58	B		61.6 B
	3年団	・「手帳」を活用し、自己のスケジュール管理が出来るようにする。	・1年より朝夕のSHRや学年集会など機会ある毎に持参し記入するよう指導してきた。進路決定もあり定着が見られる場面もあるが、活用状況は様々で自主的に書き込み自分のスケジュールを管理できている生徒は多くない。	65	B					・SHRや集会、進路決定やキャリア教育タイムなどを活用して「手帳」活用を図ったことで持参率は増加した。定着し自己管理ができるようになった生徒もいるが、そこまで至っていない生徒も多い。	65	B		65.0 B

4 将来のスペシャリスト（グローカル人材）の育成

具体的な学校経営目標	担当	具体的な取組	中間評価（数字は達成率[%]）				自己評価アンケート（数字は是認率[%]）			最終評価（数字は達成率[%]）				総合評価 70.4 A
			達成状況	担当評価		項目評価	生徒評価	保護者評価	教員評価	達成状況	担当評価		項目評価	
◇専門分野の知識・技術の定着を図り、課題解決能力向上のための研究活動を活性化させる。	指導教諭	・定期的な研修を企画し、教員間のチーム・組織の一員としての自覚の向上を図る。 ・公開授業ではテーマ設定を行って取り組み、教員のスキルアップを図る。	・職員会議時の研修や指導教諭通信の発行により、意識の向上の喚起を図っている。 ・公開授業は 、ICT機器を活用した（させた）"学力向上"を意識した教科指導・"安全配慮"を意識した実習指導をテーマに実施した。	80	A	70.3 A	66.3 B	68.5 B	74.0 A	職員会議の中での指導教諭からの時間は、貴重な時間ではあるが職員会議の中ということもあり、濃い内容のものにしたかったが、情熱大陸の内容を紹介する程度に止まった気がします。教職員の意識の統一を図ることは難しさを感じるが、機会を見て共通理解事項を提示することの意味はあると実感している。 研究授業では、先生方の様々な手法を見て、教員一人一人が他の授業を見ることで、互いに使うことができる進め方があると実感した。	80	A	72.6 A	73.8 A
	園芸科学科	・専門科目の基礎学力定着、各種検定の活用を行う。	・農業クラブのプロジェクト発表や課題研究発表会にむけコースを中心に研究活動に取り組ませている。	80	A					ベジタブルの課題研究では栽培技術の研究を中心に行っており、1人1課題で生徒主体の研究となるように計画から実施まで工夫している。シクラメン祭でも販売することができた。 フルーツの課題研究では産学官の連携（岡大・住友化学）により、生徒が主体的に活動しようとする姿が見られた。	80	A		73.8 A
	生活デザイン科	・3年間を見通したストーリー性のある年間指導計画を作成し、授業改善を行う。 ・スペシャリストに必要な資質や能力を育成し、魅力ある外部講師事業を位置付ける。	・年間指導計画を統一の書式で各科目で作成し、見直しを行う。 ・一台端末を有効に活用するなど、わかる授業を心掛け、資格・検定取得につなげている。食物・CADなどの多くの外部講師を招聘し専門的な授業を展開している。	65	B					・保育コースではオープンスクールから生デ★フェスまで段階的に実習の内容をあげて取り組んだ。実習の計画もコース選択などを踏まえて③年間の計画を立てた。 ・生徒のアンケート結果では、「将来のスペシャリストの育成」の肯定的な回答が79～93%と高い結果となっている。検定や資格取得に前向きに臨む姿勢が見られる。	71	A		68.9 B
	1年団	・資格・検定の取得や受験を励行する。	・積極的な資格取得、検定受検を促し、進路指導の一環としても声かけを行っている。	60	B					一部の生徒は検定試験に積極的に取り組んだり、将来の進路を見据えて活発に活動できている。地域との交流活動などを通じてさらに多くの生徒が将来の具体的なイメージが抱き、様々な検定や資格の取得に挑戦できるようにしていきたい。	70	A		67.8 B
	2年団	・専門科との連携を図り、それぞれの教科科目の学習のサポートをする。	2年生になり専門性が増し、研究活動が進められている。また資格取得や検定に向けた学習も深まっている。	70	A					プロジェクト（研究）や資格取得に向けた取組に積極的に参加する生徒が増えている。専門性に加えて実践力も養われている。	72	A		70.2 A
	3年団	・専門科との連携を図り、それぞれの教科科目の学習のサポートをする。	・各学科、コースなど専門的な学習に意欲的に取り組む姿が見られた。また、学習した内容を活かし課題研究や検定、資格取得に励んでいた。	67	B					課題研究や検定、資格取得など専門的な学習に意欲的に取り組む姿が見られた。	63	B		67.8 B

5 地域社会・保護者から信頼され愛される学校づくり

具体的な学校経営目標	担当	具体的な取組	中間評価(数字は達成率[%]) 達成状況	担当評価		項目評価	自己評価アンケート(数字は是認率[%]) 生徒評価	保護者評価	教員評価	最終評価(数字は達成率[%]) 達成状況	担当評価		項目評価	総合評価 72.8 A	
◇コミュニティースクールを核とする地域や保護者との連携・協働を推進し、積極的な情報発信を行う。	教頭	・学校運営協議会ででた意見等をもとに、地域と連携した学校運営を図る。 ・コミュニティー・スクールによる地域連携と情報発信を推進していく。	創立100周年記念行事やシクラメン祭等を通して、本年度の重点目標である「生徒の主体性を育む」ことについて、委員と協議を行った。生徒主体の取組や学校の丁寧な来客対応が学校広報活動につながるといった意見を今後の学校運営に生かしていきたい。また、2回の会議には、代表生徒が出席することが決定した。	70	A	70.4 A	71.2 A	68.4 B	82.4 A	学校運営協議会において、委員と生徒が意見交換を行う機会を新たに設けた。シクラメン祭の復活に加え、創立百周年を契機として、本校の教育活動に生徒が主体的に取り組む機会を充実させるきっかけづくりとなった。引き続き、特色ある学校づくりに向けて、校内外の関係者が、学校自己評価アンケート結果等を分析しながら、議論や改善点の提案を行い、アクションを起こしていきたい。	70	A	71.5 A	72.4	A
	指導教諭	・ホームページ・SNS(Instagram・YouTube)の更新・投稿を継続的に行い、地域や中学生、保護者への情報発信を積極的に推進する。	・各学科、部活動において活発なSNSへの啓発を行っている。ただし、特定の部署に限るので、できれば全ての部署で実施したい。特に部活動で複数顧問がいるので、SNSへのアップ担当がいれば助かる。	70	A					各学科、各団体で熱心に取り組んでいただいた。SNSへの啓発がどの程度、中学生に対してアピールになっているかは定かではないため、今後、配信に合わせて、SNSへの配信wしていることの情報提供をしていく必要があると考える。	80	A		74.4	A
	生徒課	・地域における交通マナー(規範意識)の向上を図る。 （交通道徳を養い、交通ルールを遵守する。交通安全に対する意識を高め、危険予測・事故防止に努める態度を養う。） ・公共の場においての周囲に配慮した行動(マナー)意識の向上を図る。	・地域からのクレームは、未だに後を絶たない。特に自転車における交通マナーが悪いという内容が多い。 (並進、一旦停止無視、斜め横断など) ・瀬戸駅(待合室)での過ごし方にクレームが多い。公共の場での振る舞いを今一度指導すべき。	60	B					・交通委員会をはじめ、呼びかけや注意喚起をしているが、地域からのクレームは後を絶たない。 ・校内と校外での生徒の様子が明らかに違うという感覚を感じている。それが地域のクレームに繋がる。 ・交通マナーのクレームに「生徒が悪い」と言われるが、現場を見に行くと一般の車や自転車のマナーも相当悪い状況にある。何でも生徒のせいにしているのではと思い、赤磐署交通課に話しに行きました。対策を練るとのことです。	60	B		68.4	B
	園芸科学科	・地域から信頼される農産物の生産と地域連携。地域や保護者への情報発信・公開	・高品質の園芸生産物の生産に取り組んでいる。ブドウ祭りや校外のイベントに積極的に参加し、また公民館とも連携して交流イベントを企画し実施している。	80	A					「シクラメン祭」「ブドウ祭り」など校内行事の実施と、地域の公民館や小学校との交流会、関係団体のイベントなどに積極的に参加し、生徒が実習で製作した園芸産物を販売・展示してきた。市場と差が無い品質になってきており、地域の方々との交流も十分にできている。 日頃の実習の様子やプロジェクト活動をSNSで発信することができた。	75	A		75.4	A
	生活デザイン科	・生活デザイン科の魅力をホームページやSNS等で積極的に広く情報発信を行う。 ・学習成果を地域に還元し、地域貢献やボランティア活動に積極的に取り組む生徒を育成する。 ・保護者への連絡を迅速かつ、きめ細やかにすることで、保護者と協働しながら教育活動を推進する。	・昨年に引き続き、インスタグラム等の更新を科をあげて取り組んでいるが、昨年同時期(39件)に比べ、更新数が21件と少なくなっている。 ・江西小学校へのミシン支援や地域の小学生への料理教室、盲学校へ花苗の点字説明をプレゼントするなど地域貢献を行っている。 ・今年度新規の実習先のこども園や介護施設で希望者がボランティアに参加できた。 ・各クラス担任が中心で、こまめな保護者連絡・家庭訪問を行うなど適切に対応している。	70	A					・本校ホームページ、インスタグラム、フェイスブックに情報発信(現在33回)ができたが昨年度67回には、今年度は及びそうになく、外部講師授業や生徒の活動など積極的にあげていきたい。 ・今年度は、小学校との交流、シクラメン祭、西大寺のこども広場、施設でのハンドケアなど、生徒の学習成果を地域に還元することができた。、来年度も新しく活動の場を拡げていきたい。 ・生デフェスを瀬戸公民館で行い、生徒の学習成果を地域の方にも見ていただく機会ができた。	71	A		72.5	A
	1年団	・課外活動へ積極的に参加させ、瀬戸南高校の生徒としての自覚を持たせる。	・授業を通じて校外の機関と連携する経験を積む機会を与えるとともに、ボランティアなどへの積極的参加を促している。	60	B					地域のボランティアに積極的に参加している生徒が一定数いる。学校行事に参加する保護者が多数いる。また、授業やその他の活動で地域との交流事業が増えている。これらのことから地域社会・保護者からの信頼は増していると考えられる。	70	A		70.4	A
	2年団	・保護者との連携を密に取りながら情報共有に努める。また、地域とも連携を図り校外学習やボランティア活動などへの参加を促す。	家庭との連携を図り、教員間での情報共有も密に取れている。地域ボランティア活動への参加者も徐々に増えている。	80	A					学校での様子や家庭での様子など、家庭との連絡を密にし連携が図れている。また、学年団でも情報共有を密に取ることができた。ボランティア活動を通して地域に貢献している生徒もいる。	73	A		75.0	A
	3年団	・家庭との連絡・連携を密に行い情報共有を図る。 ・登下校時の身だしなみや交通マナーなどを自覚させる。	・家庭への連絡は電話や面談、家庭訪問など場面に応じて行われている。成果が得られない場合もあるが、繰り返し行うなど丁寧な対応を実施している。 ・校外での身だしなみや交通マナーについてはその都度声かけを行っているが、意識を持って行動できている生徒は多くないため、指導を継続していく。	73	A					家庭との情報共有は家庭訪問や面談、電話などを通して十分に行われている。 校外での身だしなみや交通マナーについては自覚のある行動をとれていない生徒たちがいるためさらなる指導を必要とする。	73	A		73.6	A

6 業務の精選と魅力ある職場環境づくり

具体的な学校経営目標	担当	具体的な取組	中間評価(数字は達成率[%]) 達成状況	担当評価		項目評価	自己評価アンケート(数字は是認率[%])		教員評価	最終評価(数字は達成率[%]) 達成状況	担当評価		項目評価	総合評価 68.7 B	
◇業務の精選と校内組織の再構築による勤務負担軽減を推進し、職場の心理的安全性を高める。	指導教諭	・保護者とのやりとりに関して、学校での様子を伝えるとともに家庭での状況把握に努める。	・保護者への丁寧な対応を心がけるよう教員にアプローチをしている。 ・生徒・保護者へ寄り添った対応の重要性を常に意識しておかなければならない。	65	B	67.6 B			65.3 B	保護者との情報共有は、必要に応じてできている。ただ、あった事の事実だけを伝え、保護者からしたら、学校から我が子の悪い行動の時だけ連絡してくる感覚を持つ保護者はいるかもしれない。指導した後ほど、保護者に生徒の良い動きの話しの電話をいれることでさらなる信頼関係が生まれる。	75	A	73.2 A	68.4	B
	厚生課	・防災意識を高めるため避難訓練と日常の安全点検に努め、安心安全な学校生活が送れるよう、生徒・保護者への周知と教職員の協力体制を作る。 ・保健委員の啓発活動により自身と集団の健康への関心を高める。	教員で校内の安全点検を2ヶ月1回に行い、設備等の不良箇所の修理や改善を行った。 また、PTAの保護者と一緒に校内の教室や設備を見て回り、老朽化や改善点を指摘した。	60	B					教員で校内の安全点検を2ヶ月に1回に行い、設備等の不良箇所の修理や改善を行った。 また、PTA役員と一緒に校内の教室や設備を見て回り、破損個所・老朽化や改善点を指摘した。 通路の破損個所を修繕したり、交換を行った。 保健委員会では、毎日の健康観察、保健だより、桃源祭の展示等健康維持の啓発活動を行った。	80	A		68.4	B
	園芸科学科	・生徒減・人員減に対応した経営規模、新たな研究内容を検討することができる経営を模索する。	・IT技術を利用し生徒の学習内容を広く公開している。また学科新聞により保護者に学習内容をお知らせしている。	90	A					SNS(インスタグラム他)や紙媒体(学科通信A4版)を利用して積極的に情報発信に努めた。また、イベントを通して保護者や地域の方々に生徒の活動を直接アピールできた。	90	A		81.8	A
	生活デザイン科	・業務の精選と行事や分掌の再構築による勤務負担軽減を推進し、同僚性や心理的安全性を高め、教育活動を行っていく。	年度はじめに、役割分担を見直し、負担軽減に努めたが、十分な効果に至っていない。校内の業務が多い上、校外から依頼される業務や周年記念事業など本科にかかる負担が大きい。現状個々の時間外労働で成り立っている。より持続可能な体制作りに向けて、負担軽減になるよう改善を進めていきたい。	30	C					通常業務に加え、周年記念事業、初任者研修会場校、技術検定のとりまとめ校(被服)など、外部からの役や依頼も受けており、科の負担の大きい年であった。生徒の活動の場を拡げようと地域に出て行くなど初の試みも多かったことも負担につながったと思われる。効果的なものは継続し、不要と思われるものはなくしていくなど精選も必要。継続するなら、誰が担当しても負担が少しでも軽くなるよう、記録や資料を伝達していく。	51	B		48.9	B
	1年団	・ICT機器の活用を促進し、業務の削減に努める。	・生徒への連絡や課題の配信、提出を端末を使って行い、業務の効率化を図っている。 ・一人一台端末を利用して授業の振り返りやアンケートを実施し、学習状況の把握に時間や集計業務が軽減した。	80	A					百問繚乱などのテクノロジーを利用することで業務の軽減がはかられている。科学技術の進歩の成果を活用することでさらに業務の軽減を図りたい。	80	A		75.1	A
	2年団	・家庭との連絡をこまめに行う。	家庭との連絡は、密に取ることができており生徒への早期対応ができている。状況に応じて電話連絡、保護者来校、家庭訪問などの手段を選択しているが、連絡がなかなか付きにくい家庭もあり担任団への負担が大きいと感じる。	80	A					学年団内での情報共有を行い、適切に電話や懇談会など家庭との連絡を密に行うことができた。	73	A		72.8	A
	3年団	・業務を見直し、協力して行うことで削減を図る。	・業務の削減には至っていない。まずは削減可能な業務を見極め、一部の人に業務が集中しないように積極的に協力する。	68	B					業務の削減には至っておらず、現状ある業務を分担・協力して行った。しかし、その上に生徒の対応が重なり業務過多になっている状況があった。	63	B		65.4	B